

I 生涯教育事業

* 定期公開講座

* 自主講座

* 小中学生講座

* 語学講座

* 開放授業

平成23年度 定期公開講座

統一テーマ 「新アプローチでやりなおし英語」				
講義	日	時	内 容	講 師 (担当科目・専門)
第1回	10月7日 (金)	19:00 ～19:10	開講式	事務局 地域研究センター長
		19:10 ～20:40	Self Study Skills for Language Learning. (No.1)	教授 ヒュー・ニコル (アメリカ文化論)
第2回	10月14日 (金)	19:00 ～20:30	Self Study Skills for Language Learning. (No.2)	
第3回	10月21日 (金)	19:00 ～20:30	英語への有意味受容・ 発見的アプローチの理論と実践(1)	教授 加藤 厚 (教育心理学)
第4回	10月28日 (金)	19:00 ～20:30	英語への有意味受容・ 発見的アプローチの理論と実践(2)	
第5回	11月11日 (金)	19:00 ～20:30	発音・発声から見える 英語文化・日本語文化(1) (1)英語の語感をどう感じるか	准教授 竹野 茂 (英語教育・スピーチ)
第6回	11月18日 (金)	19:00 ～20:30	発音・発声から見える 英語文化・日本語文化(2) (2)英語音とカタカナ英語音の 発音の違いを見つけよう	
		20:30 ～20:40	閉講式(修了証授与)	地域研究センター長

講座名		定期公開講座	
実施期間・回数		平成23年10月7日(金)～平成23年11月18日(金) 19時00分～20時30分	全6回
会場		宮崎公立大学 マルチメディア第2自習室	
回	講師	タイトル	
1	ヒュー ニコル	「Self Study Skills for Language Learning, no.1」	
2		「Self Study Skills for Language Learning, no.2」	
3	加藤 厚	「英語への有意味受容・発見的アプローチの理論と実践(1)」	
4		「英語への有意味受容・発見的アプローチの理論と実践(2)」	
5	竹野 茂	「発音・発声から見える英語文化・日本語文化」 — 英語の語感をどう感じるか —	
6		「発音・発声から見える英語文化・日本語文化」 — 英語音とカタカナ英語音の発音の違いを見つけよう —	
受講者負担		受講料: 2,000 円 (資料代を含む)	
配布資料等		受講のしおり 各講演資料	
募集定員		50 名	
(募集条件)		特になし	
参加者数		受講申込者: 50 名 (男性: 22 名 女性: 28 名) 受講者数: 40 名 (男性: 16 名 女性: 24 名) 受講者のべ総数・・・(173 名)	
【講座風景写真】			
			
第1回の講座風景 (ニコル教授)		第6回の講座風景 (加藤教授)	
【受講者アンケートより】			
<p>○英語学習には何度も挫折を経験してきたが、今回が再帰する最後のチャンスと思って参加した。いくつかの示唆をいただいたので、実行に移そうと思います。</p> <p>○初めて講座に参加しました。さっぱりちんぷんかんぷんでしたが、新鮮で楽しかったです。</p> <p>○学校の英語の授業で習わなかった英語の歴史が習えてとても楽しかったです。</p> <p>○日本がディベートに弱い背景が垣間見えた気がしました。</p> <p>○英語習得に向けてのきっかけを一つ学べたのかなと思います。</p> <p>○今までは英語を話す時カタカナ英語を英語っぽく話して満足していました。英語の教師を目指しているので、音声についての勉強もしっかり勉強して、正しい発音を教えられるようになればいいです。</p>			

平成 23 年度 自 主 講 座

No.	講座名	講師	内 容	日 程
1	情報処理 入門講座	金子 正光	ICT（情報通信技術）利活用やセキュリティなど、情報化社会の諸問題を学ぶとともに、パソコンを用いて表計算ソフト（エクセル）による情報リテラシーを学ぶ。	平成 23 年 9 月 29 日(木) 10:00～16:00 (全 1 回)
2	インター ネット 安全教室	金子 正光	パソコンや携帯電話で思わぬトラブルや犯罪に巻き込まれないために情報セキュリティの基礎知識を身につける。	平成 23 年 10 月 16 日(日) 13:30～15:30 (全 1 回)
3	高齢者向け インター ネット 体験講習会	金子 正光	インターネットの出現と飛躍的な普及は、高齢者にとって有益な情報伝達手段となっている。パソコンが初めての高齢者を対象に講習会を実施する。	平成 23 年 11 月 12 日(土) 13:00～16:00 (全 1 回)
4	大宅壮一を 読む	阪本 博志	大宅壮一の活動期間のうち、彼が「国民的評論家」と呼ばれた戦後を中心に、彼の著作を読み、その足跡をたどる。	平成 24 年 1 月 21 日(土) ～1 月 18 日(土) 14:00～15:30 (全 2 回)

講座名	情報処理入門講座	
実施期間・回数	2011年9月29日 10時00分～16時00分	全1回
会場	(学内) 【マルチメディア第1講義室】	
講師	(職氏名) 教授 金子 正光	
共催者	なし	
後援	なし	
その他スタッフ	池田 一毅(ゼミ4年)、甲斐 智佳世(ゼミ4年)、増田 紗貴(ゼミ4年)、池田 典繁(ゼミ3年)、野田 英太郎(ゼミ3年)、工藤 志野(ゼミ2年)、郡山 裕(ゼミ2年)、谷口 雄太(ゼミ2年)、藤川 あづさ(ゼミ2年) 計9名	
受講者負担	(受講料) (その他) 【 0 円】 教材資料代して【 500 円】	
配布資料等	金子正光・他:「文系のためのエクセルによる表計算ソフト演習入門」、プログラム等	
募集定員	20名	
(募集条件)	計算ソフト(エクセル)の基礎知識のある方が望ましい	
参加者数	受講申込者:27名 受講者数 :25名	
【講座の内容】	<p>情報通信技術の利活用は日常の生活に不可欠となっている。そこで、本講座では、一般市民を対象に、ICT 利活用や情報セキュリティなど情報化社会の諸問題を学ぶとともに、パソコンを用いて表計算ソフト(エクセル)による情報リテラシーを学ぶ「情報処理入門講座」を実施した。</p> <p>当日のプログラムは次の通りである。</p> <p>9:30～ 受付</p> <p>10:00～ 挨拶(講師・学生等紹介)</p> <p>10:10～11:00 パソコン操作の基本、 コンピュータ・インターネット、 インターネット安全教室</p> <p>11:00～11:10 休憩</p> <p>11:10～12:00 情報処理とは? 表計算ソフトとは? 表計算ソフト演習(1)(基本計算)</p> <p>12:00～13:00 昼食(食堂)</p> <p>13:00～13:50 表計算ソフト演習(2)(関数 1)</p> <p>13:50～14:00 休憩</p> <p>14:10～15:00 表計算ソフト演習(3)(関数 2)</p> <p>15:00～15:10 休憩</p> <p>15:10～16:00 表計算ソフト演習(4)(データベース)</p>	
【講座風景写真】	 <p>マルチメディア第1講義室(1)</p>  <p>マルチメディア第1講義室(2)</p>	
【講師コメント】	<p>一般市民対象の「情報処理入門講座」定員20名に対して、申込数は27名、受講者は25名であった。その内訳は、男性7名、女性18名で、受講者の平均年齢は58歳、最高年齢は79歳(男)、最小年齢は34歳(女)であった。学生ボランティア9名の支援体制で行った。講座内容の一部に、インターネット安全のDVD上映を取り入れなど、講座の工夫を図るとともに、情報処理の基本を講義した。受講者から講習会に対して感謝の言葉を賜った。また、講座終了後に、受講者から個別の質問を受け、学生が丁寧に対応した。</p>	

講座名	インターネット安全教室	
実施期間・回数	2011年10月16日(日) 13時30分～15時40分	全 1 回
会場	(学内) 【交流センター・多目的ホール】	
講師	(職氏名) 教授 金子 正光	
共催者	経済産業省、NPO 日本ネットワークセキュリティ協会(JNSA)	
後援	情報セキュリティ政策会議、警察庁、宮崎市、宮崎市教育委員会、宮崎銀行	
その他スタッフ	池田 一毅(情報科学演習ゼミ4年)、甲斐 智佳世(情報科学演習ゼミ4年)、 増田 紗貴(情報科学演習ゼミ4年)、山之内 梨紗(情報科学演習ゼミ4年)、野田 英太郎(情報科学演習ゼミ3年)、工藤 志野(情報科学演習ゼミ2年)、	
受講者負担	(受講料) 【 0 円】	(その他) 【 円】
配布資料等	当日プログラム、DVD 冊子、アンケート	
募集定員	100 名	
(募集条件)	なし	
参加者数	受講申込者：23 名 受講者数：16 名 受講者のべ総数・・・(16 名)	

【講座の内容】

2011 インターネット安全教室は次のようなプログラムで行なった。

- ◆13:00～ 受付
- ◆13:30 開演
主催者挨拶 宮崎公立大学・教授 金子 正光
講師挨拶 宮崎公立大学・教授 金子 正光
☆「インターネット安全教室の歴史と目的」講演
- ◆13:40 DVD 上映・冊子解説
宮崎公立大学・教授 金子 正光

14:30～14:40 休憩(10分)

- ◆14:40 宮崎警察からのお話
宮崎県警察本部 生活安全部 生活安全企画課
サイバー犯罪対策主任 由地 久登 氏
☆「インターネット安全教室
～宮崎県内のサイバー犯罪の現状と課題～」講演
- ◆15:10 クイズ学習
- ◆15:30 質疑応答
- ◆15:40 終了

【講座風景写真】



インターネット安全教室の様子(講師:金子正光)




インターネット安全教室終了後個別質問の様子

【講師コメント】

受講者の年齢層は主に50代(3/16)、60代(3/16)と70代(3/16)が中心であった。20代(2/16)の若い世代の参加もあった。事前申込では23名であったが、当日の参加者は16名と下出席率であった。当日は、宮崎市内の小・中学校で運動会が開催されていたので、参加者が少なかつたと思われる。来年度以降、開催日時と曜日を再検討する。受講者の多くはインターネット安全に関する関心・興味が高かつた。

講座名	高齢者向けインターネット体験講習会	
実施期間・回数	2011年11月12日 13時00分～16時00分	全1回
会場	(学内) 【マルチメディア第1講義室】	
講師	(職氏名) 教授 金子 正光	
共催者	なし	
後援	宮崎ITシニアレディアの会、放送大学宮崎学習センターパソコンサークル	
その他スタッフ	宮崎ITシニアレディアの会の会員(7名)、放送大学宮崎学習センターパソコンサークルの会員(8名)、一般ボランティア(2名)、情報科学ゼミ学生(5名)、計22名	
受講者負担	(受講料) 【 0 円】	(その他)
配布資料等	高齢者のためのインターネット体験講座	
募集定員	20名	
(募集条件)	65歳以上	
参加者数	受講申込者:23名 受講者数:22名	
【講座の内容】	<p>次のようなシラバスで体験講習会を行なった。</p> <p>第1章 パソコンの基本操作をマスターする</p> <p>1-1 パソコンの起動</p> <p>第2章 Windowsの基本操作を身につける</p> <p>2-1 デスクトップ画面を確認する</p> <p>2-2 マウスの操作に慣れる</p> <p>第3章 アプリケーションソフトを使う</p> <p>3-1 ワードを起動する</p> <p>3-2 日本語を入力する</p> <p>3-3 コピー、切り取り、貼り付け、移動をマスターする</p> <p>3-4 ファイルの保存と呼び出しをマスターする</p> <p>第4章 インターネットを使う</p> <p>4-1 インターネットって何?</p> <p>4-2 ホームページを見る</p> <p>4-3 見たいホームページを探す(検索)</p> <p>4-4 ネットワーク利用心得</p> <p>受講者には事前にパソコン環境等についての「パソコン問診票」を個別に行い、受講レベルを把握するなどの工夫を行った。受講者一人に対して、一人のボランティアが支援した。</p>	
【講座風景写真】	 <p>主催者挨拶(金子正光)</p>  <p>高齢者向けインターネット体験講習会の様子</p>	
【講師コメント】	<p>高齢者向けインターネット体験講習会の自主講座は昨年お休みをしたが、多くの高齢者から再開の要望があったので、今年、実施する運びとなった。宮崎ITシニアレディアの会そして放送大学宮崎学習センターパソコンサークル、一般ボランティアの多くの支援、そして情報科学ゼミ学生の支援があり、受講者22名に対して、ボランティア22名のマンツーマンのインターネット体験講習会ができ、受講者から感謝の言葉を数多く賜った。</p>	

講座名	大宅壮一を読む	
実施期間・回数	平成24年 1月21日(土) ~平成24年 1月28日(土) 14時00分 ~ 15時30分	全 2 回
会場	(学内) 201中講義室	
講師	(職氏名) <small>ふりがな</small> 准教授 <small>さかもとひろし</small> 阪本博志	
共催者	なし	
後援	なし	
その他スタッフ	なし	
受講者負担	(受講料) 【 0 円】	(その他) _____ 代として 【 0 円】
配布資料等	阪本博志「大宅壮一研究序説」「占領期の大宅壮一」のコピー(受講者に事前発送) 大宅壮一「『無思想人』宣言」ほか大宅掲載雑誌記事のコピー	
募集定員	30 名	
(募集条件)	一般市民	
参加者数	受講申込者: 16名(男性: 8名 女性: 8名) 受講者数: 16名(男性: 8名 女性: 8名) 受講者のべ総数・・・(27 名)	
【講座の内容】	<p>第1回では、映像資料と拙論「大宅壮一研究序説」を用いて、大宅のライフヒストリーと近現代メディア史・近現代史とのかかわりを解説した(右の写真)。</p> <p>第2回では、拙論「占領期の大宅壮一」をもとに、占領期から1950年代までの大宅の著作物について、歴史的・社会的背景とともに解説した。その過程では、当時の雑誌資料・財団法人大宅壮一文庫の書庫等・現在の大宅壮一ノンフィクション賞贈呈式の模様をスライドに映し、それらをも交えて講座を行った。</p>	
【講座風景写真】		
【講師コメント】	<p>第1回の出席者は16名で、第2回は11名であった(風邪で欠席する旨の連絡が2名からあった)。2回目の講座終了時に記述式のアンケートに記入していただいた。「非常に刺激的。資料踏査(博搜)が徹底しているので主張に説得力がある」(男性)「こんな講座をもっとみんなに知らせたくさんの人に聞いてもらえるといいと思いました。お金をかけず、これだけのことを学ぶことが出来、本当にぜいたくな『時』を持ってました。感謝です」(女性)「御熱心に講義下さいまして有難うございました。又の機会があれば是非参加させて頂きたいと念じて居ます」(女性)等、9名の方から肯定的なコメントをいただいた。今後も可能な範囲で地域住民のかたがたに大学での研究成果をお伝えしていきたい。</p>	